



全ト協発第440号(環)
令和5年12月4日

都道府県トラック協会長 殿

公益社団法人全日本トラック協会
会長 坂本 克己



大型車における適切な冬用タイヤ交換作業等の実施について

平素は、全日本トラック協会の事業運営等に関しまして格別なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、去る11月30日(木)、島根県の国道において大型トラックから脱落したタイヤが歩行者に衝突し、当該歩行者が重傷を負う事故が発生しました。また、12月1日(金)には、青森県八戸自動車道下り線においても、走行中の大型トラックから左後輪のタイヤが脱落し、道路保全工事を行っていた作業員2名に衝突、1名が死亡、1名が軽傷を負う事故が発生しました。

上記の事故を受け、今般、別添のとおり、国土交通省から全日本トラック協会に対し「大型車における適切な冬用タイヤ交換作業等の実施について」が発出されました。

トラック運送業界にとって、輸送の安全確保は最大の使命であり、とりわけ大型車の車輪脱落事故は重大事故に繋がりがねず、未然防止に係る安全対策を徹底することが最も重要です。

つきましては、同通達の記に示された項目について、改めて傘下会員事業者への周知徹底方よろしくお願い致します。

記

【添付資料】

- ・令和5年12月1日付国自安第108号・国自整第164号「大型車における適切な冬用タイヤ交換作業等の実施について」

【参考資料】

- ・全日本トラック協会ではHPに「車輪脱落事故撲滅に向けた取り組み」として、車輪脱落事故防止のための動画や啓発資料を掲載していますので、併せてご活用願います。
https://jta.or.jp/member/anzen/datsurin_torikumi.html

以上

<お問合せ先>

交通・環境部 TEL:03-3354-1045

国自安第 108 号
国自整第 164 号
令和 5 年 12 月 1 日

公益社団法人全日本トラック協会会長 殿

国土交通省 物流・自動車局
安全政策課長
自動車整備課長
(公 印 省 略)

大型車における適切な冬用タイヤ交換作業等の実施について

本日午後 3 時 50 分頃、青森県八戸自動車道下り線において、走行中の大型トラックから左後輪のタイヤが脱落し、道路保全工事を行っていた作業員 2 名に衝突、1 名が重体、1 名が軽傷を負う事故が発生した（12 月 1 日（金）午後 9 時現在）。また、11 月 30 日（木）、島根県の国道においても大型トラックから脱落したタイヤが歩行者に衝突し、当該歩行者が重傷を負う事故が発生しているところである。

事業用自動車における輸送の安全確保は、自動車運送事業者の最大の使命であり、とりわけ大型車の車輪脱落事故は重大事故に繋がりがねず、未然防止に係る安全対策を徹底することが最も重要である。

については、大型車における適切な冬用タイヤ交換作業等の実施を図るため、貴会傘下会員に対し、下記事項について改めて周知徹底を図られたい。

記

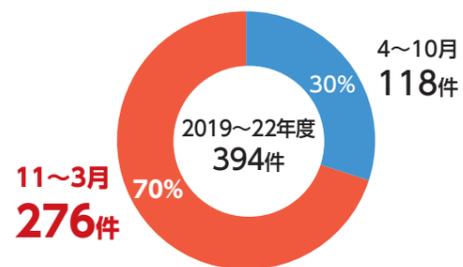
1. 大型車のタイヤ脱着作業時においては、「自動車の点検及び整備に関する手引き」及び「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」を確認の上、啓発チラシやタイヤ脱着作業管理表を活用し、確実に実施すること。

「自動車の点検及び整備に関する手引き」
<https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha/tenkenseibi/tenken/t1/t1-2/>
「冬用タイヤ交換時には確実な作業の実施をお願いします！（令和 5 年 9 月 29 日）」
https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000308.html

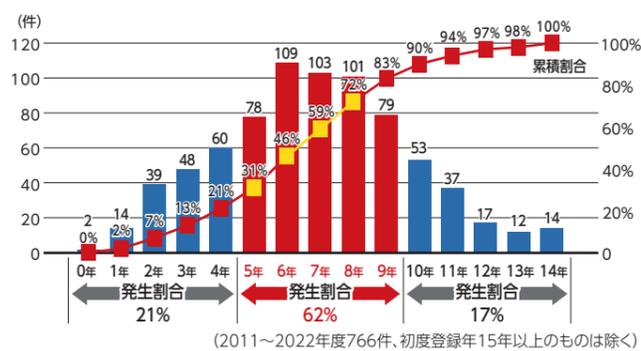
2. 運行にあたっては、車両の点検整備を確実に実施するよう関係者に徹底すること。

車輪脱落事故の発生状況

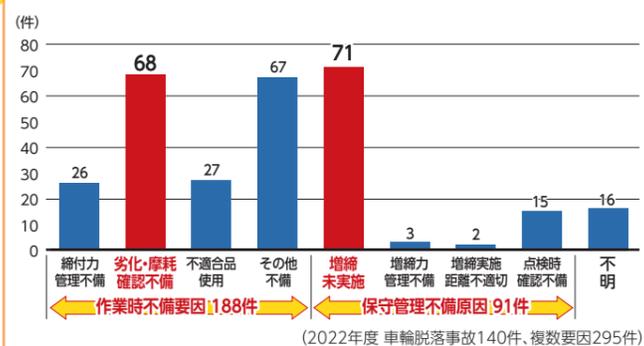
7割が冬季(11~3月)に発生



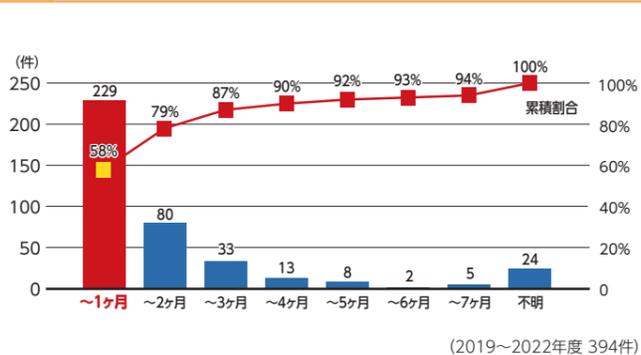
初度登録年から4~9年経過車両



主な脱落原因は劣化・摩耗確認不備と増締未実施



タイヤ交換から1ヶ月以内が6割



ホイール・ナットの緩みを見える化へ

- 規定トルクで締め付けたホイール・ナットに「マーキング」して、走行等によりホイール・ナットが緩んだ状態を可視化できます。
- 確実な日常点検の実施方法を社内で再徹底しましょう。

ホイール・ナットへのマーキング例



トルクレンチ導入助成実施中!

- 助成対象** 大型車用トルクレンチ(自立型トルクレンチ、トルクセッター型インパクトレンチを含む)
- 助成金額** 取得価格の1/2、上限3万円

最寄りのトラック協会にお問い合わせください!

適正なタイヤ交換作業の手順などの情報はこちらからご覧ください

全日本トラック協会

タイヤ交換作業の手順と方法(動画)
https://jta.or.jp/member/anzen/datsurin_torikumi.html



✓日常点検項目と点検のポイント(動画)
✓タイヤ交換時のポイント(動画)
https://jta.or.jp/member/anzen/tenken_snow_dvd.html



国土交通省



車輪脱落事故の情報
<https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha/tenkenseibi/tenken/t2/t2-1/>



事故の恐ろしさを知って!
大型車の車輪脱落事故(動画)
<https://www.youtube.com/watch?v=BE6-rcq81C8>

依然として後を絶たない!

車輪脱落事故

重大事故 激増中



大型トラックの車輪脱落は死亡事故や重大事故につながります!!

車輪脱落防止のポイント

① 適正なタイヤ交換作業



② タイヤ交換後のトルクレンチによる増し締め

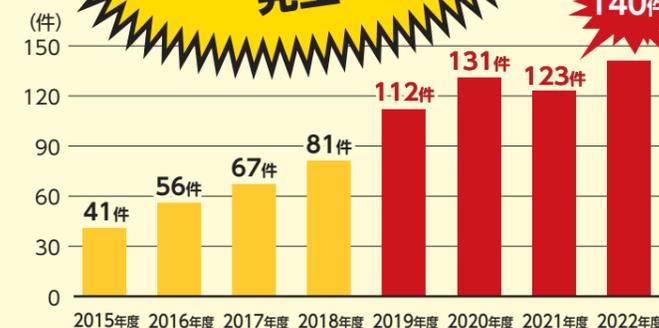


③ 日常点検、定期点検の実施



車輪脱落による人への衝撃!

近年は毎年100件以上発生!



※統計データは、「自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告」(国土交通省)による。以下、同じ。

事故事例から学ぶ！正しい交換作業で車輪脱落事故防止の徹底を！

事故事例

事故事例 1

一般道走行中、
左側後前軸のタイヤ2本が脱落し、対向車と衝突！！

推定要因

- 劣化したホイール・ナットが交換されていなかった。
- タイヤ交換後の初期なじみによりホイール・ナットの緩みが生じたが、使用者によるホイール・ナットの増し締めが実施されていなかった。

事故車両の写真



ホイール・ナットの摺動部にはガタが発生しており、ワッシャがスムーズに回転しなかった。
ホイール・ナットの摺動部に潤滑剤の塗布は確認されなかった。

事故事例 2

交差点で停止後、再発進できず確認したところ、
左側後前軸のタイヤ2本が脱落していた！！

推定要因

- ホイール・ボルトのねじ部やホイール・ナットの摺動部に、潤滑剤の塗布は確認されなかった。
- 著しいさびの発生や汚れ等の異物が付着し、ホイール・ナットの摺動部に著しいガタが発生していた。
- タイヤローテーション後の初期なじみによりホイール・ナットに緩みが生じたが、使用者によるホイール・ナットの増し締めが実施されていなかった。

事故車両の写真



ハブのディスク・ホイール当たり面には、著しいさびが発生



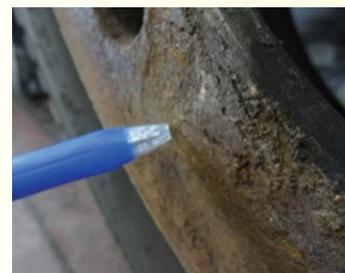
ホイール・ボルトのねじ部に著しいさびや汚れが付着



ディスク・ホイールの表面には著しいさびが発生



ホイール・ナットの摺動部に、潤滑剤の塗布が確認できない



ディスク・ホイールの表面やホイール・ボルト穴の周辺は、著しいさびによる損傷や剥離が進んでいた



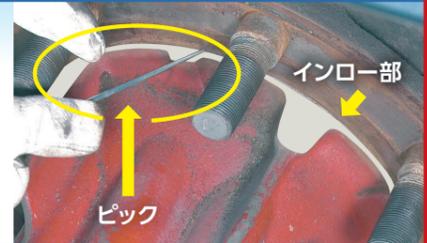
事故防止対策

手順①

ハブ面

- 点検— ハブ面の摩耗・損傷を点検。
- 清掃— ディスク・ホイール取付面やインロー部を清掃。
- 給脂— インロー部に規定のグリスを薄く塗布。

金ブラシやピックが便利



手順②

ディスク・ホイール

- 点検— 次の①～⑤の亀裂や摩耗、損傷がないかを点検。
①ホイール・ナットの当たり面 ②溶接部 ③ホイール・ボルト穴や飾り穴
④ハブへの取付面 ⑤ディスク・ホイール合わせ面
- 清掃— ホイール・ナットの当たり面とハブ取付面のさび、ゴミ、泥、追加塗装等を取り除く。

金ブラシが便利



手順③

ホイール・ボルトとホイール・ナット

- 点検— 亀裂、損傷、著しいさびがないかを点検。
ホイール・ボルトは、ねじ部につぶれ、やせ、かじり等の異状も点検。
 - 清掃— ねじ部等のさび、ゴミ、泥、追加塗装等を取り除く。
 - 給脂— エンジンオイルなどの潤滑剤をねじ部に薄く塗布。
ホイール・ナットとワッシャの間の摺動部に給脂(塗布)。
※ホイール・ボルトとの当たり面には塗布しない。
 - ワッシャの回転を確認— スムーズに回転しない場合は交換が必要。
- ホイール・ナットは、新品から一定期間(4年目安)経過した場合は入念に点検!

金ブラシが便利 潤滑剤を準備



点検・清掃後に異状があれば部品の交換が必要です!

手順④

タイヤの取り付け

- 取り付け— センタリングガイドを活用!
ホイール・ナットは、取り付けしていた元の位置のホイール・ボルトに取り付け。
- 仮締め— インパクトレンチは規定トルク以下で!
対角線順に2～3回に分けて実施。

トルクレンチを準備



トルクレンチを使って規定トルクで正しい締め付け

タイヤ交換後、50～100km 走行後にトルクレンチで増し締めを!